

デーリー東北  
2019年(令和元年)7月13日(土曜日)(22)

市博物館できょうから市制施行90周年記念特別展

八戸の歩み多彩な視点で

八戸市博物館の市制施行90周年記念特別展「八戸90年の歩み」が、13日に始まる。資料で市誕生から現代までの歴史をたどるとともに、自分に似た八戸の先人を探すぐらゝムや歴史クイズ、昭和の八戸を背景にした写真撮影コーナーもあり、懐かしの八戸を体感できる。8月25日まで。(松浦大輔)

体験コーナーも



八戸市の90年の歩みを振り返る特別展  
12日、市博物館

八戸市は1929(昭和4)年5月1日、八戸町、小中野町、湊町、鮫村の4町村が合併して誕生。その後も近隣町村を編入しながら、水産都市、工業都市、国際物流の拠点など、さまざまな顔を持つまちとして発展してきた。

特別展では、市誕生当日の新聞記事や長根公園にあった遊園地の配置図、蕪島が橋でつながっていた頃に画家七尾英鳳が描いた「鮫浦風景図」、昭和八戸の写真など、多角的な視点で90年の歩みを紹介している。見るだけでなく体験も。

昭和八戸の風景を合成して、タイムスリップしたかのような写真が撮れるコーナーは八戸工業大が協力。教科書や写真から復元された昭和の子どもの服もあり、実際に着ることが出来る。同館の山野友海学芸員は「子どもや孫に昔懐かしい八戸を語りながら、楽しんでほしい」と話している。

開館時間は午前9時～午後5時。休館日は16、22、29日、8月19日。入館料は小中学生50円(市内無料)、高校・大学生150円、一般300円。13日午後2時

からは学芸員による解説を行う。13、14日は、同鉄道研究会が制作した八戸の鉄道模型も展示する。